

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成26年 冬 第38号

看護師さんを
募集しています

あかり

A K A R I

2014年てんかん初夢	1
認知症とは	2
てんかん病棟での入院生活～A6病棟～	3
「てんかん看護セミナー」を開催して	3
インフルエンザの予防と治療薬／平成25年度 秋まつり	4
こどものリハビリテーション～手先の不器用さへの作業療法～	5
てんかん学研修セミナーの報告	6
てんかん外来再診の診療体制／医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ／当院へのアクセス／本	8

2014年てんかん初夢

皆さん、あけましておめでとうございます。

2013年は富士山の世界遺産登録や東京オリンピック招致など、楽しい話題がありました。今年はどんな楽しいことがあるのかと、わくわくされている方も多いと思います。私も、てんかんの臨床研究からいろんな夢の治療が可能になる年になるのではと、わくわくしています。

新しい抗てんかん薬としては、トピラマートの小児用、オクスカルバゼピン、ペランパネル、ラコサミド、ブリバラセタムなどの現在治験中の薬剤が、1日でも早く発売となり、多くの患者さんを救ってほしいと、夢をふくらませています。

結節性硬化症や片側性巨脳症などの疾患では、mTOR系という細胞内の代謝経路に障害があるこ

とが分かってきました、その経路に作用するエベロリムスという薬剤の治験も始まっていて、これまでのお薬とは全く違う系列の薬剤が、てんかん治療に貢献する日が、そこまで来ているように思います。

京都大学山中教授の始められたiPS細胞研究では、Dravet症候群のモデル細胞ができ、現在のステリペントールやトピラマートよりももっと有効なお薬を発見できる基礎ができていて、製薬会社にも更なる奮闘を期待しています。また、iPS細胞から作ることができる神経細胞を脳の中に移植することで、脳の機能を高めようという動物実験も始まりそうです。脳炎などで高次脳機能障害にお困りの方を、救ってくれる日が待ち遠しいですね。

Dream come true! (副院長 高橋 幸利)

認知症とは



近年、日本の高齢化に伴い認知症患者の増加を認め、認知症への理解の重要性は増しています。そこで今回、認知症について概説をおこないます。

まず、「認知症」とは様々な原因で脳細胞が徐々に壊され、脳細胞の働きが悪くなった為に、日常生活をうまく行えなくなっている状態と考えられています。認知症を引き起こす病気の中で多いのは脳の神経細胞がゆっくりと壊されていく「変性疾患」と呼ばれる病気です。アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症などがあります。続いて多いのが、脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、その部分の神経細胞に障害が起こる脳血管性認知症です。

認知症の症状は様々なものがありますが、主に中核症状と周辺症状に分けられています。中核症状は認知機能障害といい、記憶障害、失語、失行、失認、遂行機能などが含まれ、周辺症状は幻覚、妄想等の心理症状や脱抑制などの行動異常があります。

注意しなければならないことは認知症と類似症状を呈する「治療可能な認知症(treatable dementia)」といわれるものがあることです。具体的には甲状腺の異常、ビタミン欠乏、電解質異常、薬剤性、うつ病などがあげられ、正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫などは外科的な治療により症状の改善が期待できる疾患もあります。上記疾患に関しては血液検査や画像検査などによって発見することが可能と

なっています。

認知機能障害に対しては、本邦では以前よりドネペジル塩酸塩(アリセプト®)での治療が可能でした。近年、認知症の原因で多いアルツハイマー型認知症に対して、内服薬でメマンチン塩酸塩(メマリー®)、ガランタミン臭化水素酸塩(レミニール®)、貼り薬としてリバスチグミン(イクセロン/リバスタッチパッチ®)といった新規薬剤が登場しており、症状に合わせて選択が可能となっています。周辺症状に効果があるとされる薬剤もあります。

一般的に認知症は治らない病気と考えられていますが、認知症も早期に診断し治療を開始することや予測される経過を理解することは非常に重要な事です。確かに、認知症の根治は難しいですが、進行を遅らせるもしくは部分的とはいえ改善がみこまれる上記薬剤、リハビリテーション、適切なケアなどを組み合わせることで生活の質が向上し、認知症患者がその人らしく暮らせるよう支援することが大切なことと考えられます。

当院でも『物忘れ外来』があり、診断や治療を行っております。自宅から遠方である方は診断後、自宅から近い医療機関と連携しながらの治療やケアなども行っております。ご自身もしくは同居者の物忘れの症状が気になり始めたら早めの物忘れ外来の受診をおすすめしています。

(神経内科 松平 敬史)

看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り

②非常勤職員(外来、通所事業、病棟)

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか? 相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@szec.hosp.go.jp

てんかん病棟での入院生活～A6病棟～

Q1. どのような目的で入院していますか？

A：主な入院目的として、てんかんの診断及びてんかん発作の治療と薬物調整です。
他には、規則正しい生活が送れるよう援助する生活改善入院、病気とより良く付き合う為に薬の管理や病気を学ぶための入院なども行っています。

Q2. 一日の入院生活の流れはどのようになっていますか？

A：規則正しい生活が送れるよう、起床時間が6時30分、就寝時間は21時です。活動と休息のバランスを考え、週に2回～3回、軽運動と、ビーズ、工作などを行う作業活動をそれぞれ日課に取り入れています。



Q3. 長時間脳波中はどのように過ごしていますか？

A：長時間脳波検査は、発作を実際に脳波・ビデオで同時記録して、発作のタイプや発作波が出ている部位について詳しく調べるための検査です。期間は基本的に2～3日間ですが、状況に応じて変わることもあります。脳波検査は、普段、自然に起こる発作を記録するために、入浴、排泄時以外は、原則として脳波室で過ごしていただきます。

Q4. 入院中にてんかんについて勉強をする機会はありますか？

A：週に1回、医師、看護師、リハビリ、栄養士が講師となり、病気、検査、薬物調整、日常生活、リハビリ、体重コントロールなど、てんかんに関連した勉強会を開催しています。



(A6病棟副看護師長 山口 規公美)

「てんかん看護セミナー」を開催して

教育担当看護師長 鈴木 淑夫

当院では、平成16年より毎年全国の看護師を対象に「てんかん看護セミナー」を開催し今年で10回目を迎えました。10月17・18日の2日間で、北は秋田、南は九州までの17施設から30名が参加しました。「てんかん医療・看護に携わっている看護師に、最新の知識、技術の充足を図る」を目的に医師、看護師、薬剤師、心理療法士、理学療法士、検査技師、医療社会事業専門員から、最新情報を含めた講義を1日半行いました。2日目の午後は病棟見学を行い、講義内容を踏まえたうえで実際の看護の現場を見る事で、理解を深めて頂きました。講義内容に関して参加者からは「脳波・発作同時ビデオは分かりやすかった」や「他職種からの講義で、違う視点で学びを深めることができた」「全て内容が濃くとても勉強になった」との感想が有り

ました。1日目終了後の懇親会では、講義で質問できなかった事や、日頃自分たちが困っている事を聞いたり、意見交換をする事でそれぞれの課題の達成に意欲的に取り組んでいる姿勢がうかがわれました。セミナー終了後のアンケートでは、参加者全員が自分の課題を達成できたと答え、セミナーの開催期間の延長や、上級コースの開催等、積極的な意見も有り主催者として嬉しいかぎりです。私達も更に学習し知識・技術・資質の向上によりいっそう努力しなければいけないと思っています。今後も参加者の希望にこたえられるように、てんかん看護セミナーを開催していきたいと思えます。

なお今回のセミナーのプログラムは、当院のホームページでも確認していただけます。



インフルエンザの予防と治療薬



インフルエンザは、インフルエンザウイルスがのどや気管支、肺で感染・増殖することによって発症する病気です。季節性のインフルエンザは、例年11～12月頃に流行が始まり、1～3月にピークを迎えます。インフルエンザにかかると38℃以上の急な発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感などの全身症状が強くあらわれ、あわせて鼻水、咳、のどの痛みなどの症状もみられます。

インフルエンザの予防

インフルエンザの予防には、インフルエンザワクチンの接種が有効です。ワクチンの接種により、インフルエンザの重症化や死亡を予防し、健康被害を最小限にすることが期待されています。ワクチンの効果は約5カ月といわれ、毎年、流行シーズンの前に接種するこ

とが望ましいと考えられます。

てんかんと予防接種

てんかんをもつ小児は、さまざまな感染症疾患に自然罹患することにより、発熱などによるけいれん発作再燃や発作重積症などのリスクをもっている場合が多いといわれています。コントロールが良好もしくは、発作状況がよく確認されており、病状と体調が安定していれば、主治医と相談して予防接種をしても差し支えないとされています。ACTH療法やガンマグロブリン大量療法を受けている方、発熱によってけいれん発作が誘発されやすい方(重症ミオクロニーてんかんなど)では、接種時期や発熱時の対応を主治医と相談してください。



平成25年度 秋まつり

重症心身障がい児・者病棟(療養介護・医療型障害児入所)では、年間を通して様々な

行事を開催しています。平成25年10月30日、31日と2日間に渡って「秋まつり」を行いました。天候にも恵まれ、両日ともウッドデッキで実施することができました。

今回のテーマは「ハロウィン」。参加者の中には、仮装をした人の姿が見られました。ウッドデッキにはすぐにでも飛びつきたくするような屋台がずらり！ボウリング、紐引きくじゲーム、ジュース屋さん、じゃがバター屋さん…会場は賑やかで楽しい雰囲気になっていました。また、ステージでもたくさんの催し物がありました。1日目は「わかくさ音楽隊(高等部)」「仮装大会」。2日目は「和太鼓演奏」「わかくさ音楽隊(小中等部)」。

盛り上がりを見せたステージ企画の中から、ボランティアによる和太鼓演奏の様子を詳しくお伝えしたいと思います。静岡大学「静岡大学龍韻太鼓」のみなさん、総勢14名で和太鼓の演奏を披露していただきました。和太鼓の生演奏を聴いたことはありますか？間近で鑑賞する和太鼓の演奏は迫力満点。普

段なかなか目にしない和太鼓やアクティブな動きは見た目も楽しいですし、何より力強い

音は耳だけでなく全身に響き渡ります。患者様の中にはにこにこしている方もいれば少し驚いたように目を大きく見開く方もいらっしゃり、一人ひとりそれぞれの楽しみ方で演奏を満喫していました。

御家族からは「見応えがありますね!」等の声が聞かれた和太鼓演奏。学生からも「多くの人が見てくださることに緊張しましたが、温かく迎えてくれたため堂々と演奏することができました。」「太鼓は振動も体全体で感じるができるものです。そこから、私たちの熱気を感じていただけたらうれしいです。」等の声が聞かれました。和太鼓の演奏終了後、今度は学生がわかくさ音楽隊の鑑賞する等患者様と触れ合う場面もありました。

最後に、1日目に実施した仮装大会の表彰式を行って秋まつりは御開きとなりました。まつりの楽しさ、ハロウィンの季節感を味わうことのできる2日間となりました。ご参加・ご協力していただきました皆様、ありがとうございました。

(保育士 下村 夏子)



インフルエンザの治療薬

現在治療の主流となっているのは抗インフルエンザウイルス薬です。抗インフルエンザウイルス薬は体内でインフルエンザウイルスの増殖を抑える薬で、病気の期間と症状の重さを軽減する効果が優れています。吸入薬(ザナミビル、ラニナミビル)と経口薬(オセルタミビル)、点滴(ペラミビル)が使用できます。発症後、なるべく早く使用する必要があります。

オセルタミビル、ザナミビルは予防投与が可能です。保険適応にはなりません。また、対象は原則として高齢者や基礎疾患によりインフルエンザが重症化しやすい方で、インフルエンザ発症者の同居家族または共同生活者のみとなります。予防効果が得られるのは、薬剤を連

続して使用している期間のみであり、ワクチン療法に置き換わるものではありません。

10歳以上の未成年の患者においては、因果関係は不明であるものの、抗インフルエンザウイルス薬の使用後に異常行動を発現し、転落等の事故に至った例が報告されています。このため、オセルタミビルは、この年代の患者には原則として使用を差し控えることとされています。ただし、処方禁忌ではないので医師の判断で処方することは可能です。お薬を飲んでいない場合でも、インフルエンザ自体に伴って、同様の症状が現れるとの報告がありますので、自宅では小児・未成年の患者様が一人にならないよう配慮してください。

(製剤主任 森田 祐基)

こどものリハビリテーション ～手先の不器用さへの作業療法～

突然ですが、こんな子いませんか？

- スプーンやお箸の操作が苦手で食材をよくこぼす
- 鉛筆の力加減が苦手
- 折り紙が上手にできない
- ボタンかけが上手にできない
- ハサミで線に沿って切るのが苦手

「経験不足?」「繰り返し教えれば大丈夫?」「そのうちできるようになる?」・・・どうでしょうか?「ほら、こうやって!」「もっと力を入れて!」など、口頭で伝えても、思うように伝わらないことはありませんか?

作業療法では、その子の「手先の不器用さ」の要因が何であるかを、体の使い方や感覚の受け取り方、集中力や思考力などから、見極めていきます。例えば、指先を上手に使うためには、「指先のピラミッド構造」にあるように、頭で考える力(第4段階)だけでなく、手元をよく見る力(第3段階)、安定した姿勢で座り続ける力(第1段階)、指先を操作する力(第2段階)が必用になります。

これらのどこに要因があるのかわかると、具体的なアドバイス、練習課題の提案が可能となります。



指先のピラミッド構造

しかし、この時、能力以上の課題では、逆に失敗して自信を無くしてしまいます。その子の発達段階に合わせて、ちょうど良い体験ができ、楽しめる方法を見つけることも大切です。また、その課題を、家庭や園での生活場面でも行えるように、保護者様との相談をじっくりと行います。場合によっては、自助具の使用を検討することもあります。

もし、家庭生活、園や学校の生活の中で、「手先が不器用かな?」「どうやって教えたらいいかな?」と思うことがありましたら、作業療法士に相談してみてもいいでしょうか?

(作業療法士 笠井 愛美)



てんかん学研修セミナーの報告

神経内科医長 寺田 清人

当院では全国の医師の方々を対象にてんかん学研修セミナーを毎年開催しています。夏には成人のてんかん患者さんを診療されている先生方を対象として、また冬には小児のてんかん患者さんを診療されている先生方を対象として、年に2回ずつ行っています。本年も9月6日、7日の2日間、成人のてんかん患者さんを診療されている先生方を対象としたセミナーを開催しました。今回参加された先生方は、北海道から4名、東北地方から1名、関東地方から16名、東海・北陸地方から2名、近畿地方から8名、中国・四国地方から1名、九州地方から4名の、合計36名でした。卒業年度でみますと、卒後5年目までの先生が16名、6-10年目の先生が13名、11-15年目の先生が3名、16年目以上の先生が1名、不明の先生が3名で、本年は比較的若い先生方が中心でしたが、ベテランの先生方にもご参加いただきました。診療科としては、神経内科の先生が21名、精神科の先生が6名、脳神経外科の先生が4名、検査技師の方が2名、リハビリテーション科の先生が1名、研修医の先生が2名と、本年も最近のてんかん診療の状況を反映して神経内科の先生に多くお集まりいただいておりますが、検査科の方やリハビリテーション科の先生など、これまではあまりご参加いただいていたなかった診療科の方々にもご参加いただき、てんかん診療が包括医療であることを再確認させられました。

恒例のセミナーであるため、少しずつ講師の入れ替えや内容の改訂は行われておりますが、基本的には毎年ほぼ同様の講義から成り立っています。本年も別表の通り、てんかんの概念、疫学、分類から始まり、症候学、各種検査、薬物治療、外科的治療、包括医療などの講義が行われました。しかしながら、本年は新しい試みとして、これまでの聴講生のアンケートで「もっと脳波のことが知りたい」という要望が多かったことを受け、これまでは1時間であった脳波の講義を2時間に拡大し、さらに単なる講義という形式だけでなく、脳波判読の実際を体感していただくためにハンズオン形式を取り入れました。1日目の最後に2時間という長時間の講義と

なったため、軽食の準備はしてはありましたが、予想としては大半の聴講生は空腹と疲労のために集中できないのではと考えておりました。しかし、実際には聴講の皆様は最後まで集中されており、さらには終了後のアンケートでも(2時間でも)「脳波の講義の時間が足りない」とのご指摘をいただき、さらなる改訂の必要性を認識しました。

当院はこのようなセミナーを介して、実際にてんかんの患者さんを診療されている先生方の日々の診療に少しでもお役に立ち、それによりてんかんの患者さんの助けになればと願っております。今後も、これまでのセミナーの反省点を生かしつつ、より先生方の、さらには患者さんのお役に立てるようなセミナーを継続していきたいと考えております。なお、セミナーに参加をご希望される先生方は、案内が当院のホームページ(<http://www.shizuokamind.org/>)に3-4か月前より掲載されますので、どうぞホームページにしたがってお申込みください。

9月6日

開始時間	終了時間	講義	講師
10:20		開会挨拶	井上 有史
10:30	11:00	てんかんの概念、疫学、分類	井上 有史
11:00	11:45	薬物治療論	小出 泰道
11:45	12:30	てんかんの発作症状：局在との関連	池田 仁
12:30	13:15	昼食	
13:15	14:00	てんかんの発作症状：全般てんかんの発作	日吉 俊雄
14:00	14:45	画像診断	松田 一己
14:45	15:30	病院見学(1班、2班、3班)	
15:30	16:00	精神医学的併発症の診断と治療	西田 拓司
16:00	16:30	てんかんと免疫	高橋 幸利
16:30	17:00	電気生理学的診断(脳磁図と誘発電位)	芳村 勝城
17:00	17:15	Coffee break	
17:15	19:15	電気生理学的診断(脳波ハンズオン)	寺田 清人
20:00		懇親会	

9月7日

開始時間	終了時間	講義	講師
8:40	9:20	術前から術後まで 1)側頭葉内側てんかん	鳥取 孝安
9:20	10:00	術前から術後まで 2)新皮質てんかん	臼井 直敬
10:00	10:15	Coffee break	
10:15	10:45	術前から術後まで 3)小児の難治性てんかん・VNS	馬場 好一
10:45	11:15	高齢者のてんかん	久保田英幹
11:15	12:00	てんかんケア・包括医療・資格など	久保田英幹
12:00	13:00	昼食	
13:00	15:00	症例検討会	
15:00		閉会	

てんかん外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室	中村	山崎	臼井桂	山崎	臼井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今井		井上		松田
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田	寺田
第6診察室	芳村			芳村	馬場好
第7診察室		小出			那須
第8診察室		西田	高橋		
第9診察室	重松			大谷	大谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室		小尾	小尾		小尾
第11診察室	杉浦				荒木 ^{注1} ／馬場國

注1 第1、3週のみ

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
物忘れ外来	随時	小尾
遺伝相談	適宜	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

寺田 清人	高嶋 春美	鈴木 淑夫
高橋 昌明	仲野 久美子	傍島 隆
中神 基充	堀田 真子	高橋 輝
山崎 陽平		

発行 ■ 平成 26 年 1 月 20 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,625円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

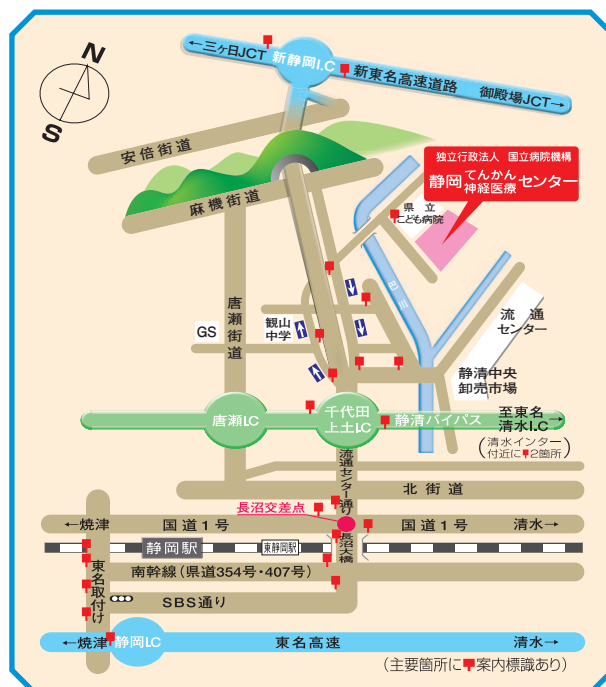
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人350円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,200円程度。
お車の場合	東京方面から ● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	名古屋方面から ● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。 ● 三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



BOOK

●新てんかんテキスト～てんかんと向き合うための本【南江堂、2012年】

当院の59名のスタッフが、医学から生活にいたるまで、乳児から高齢者に至るまで、てんかんと向き合うための側面をとりあげ、わかりやすく解説しています。

●小児てんかん診療マニュアル【診断と治療社、2012年】

てんかん診療の基礎知識、鑑別診断と治療のポイント、患者・家族への説明に至るまで、診療場面で実践的に役立ちます。改訂第2版増補版。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)